

ウクライナ侵攻と日本の食料危機

東京大学教授 鈴木宣弘さん

国連憲章も国際法も踏みにじるロシアのウクライナ侵攻は、食料や資源の安定供給にも影響を及ぼしています。農学国際専攻の鈴木宣弘東京大学大学院教授に寄稿してもらいました。



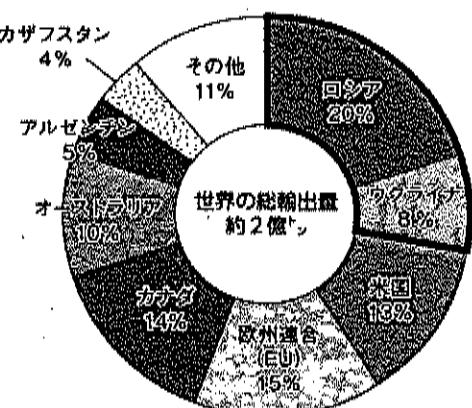
ロシアのウクライナ侵攻を機に、ロシアとウクライナで輸出市場の3割を占める小麦をはじめ、穀物価格、原油価格、資源価格などの高騰が顕著になり、食料やその生産資材の調達への不安に拍車をかけています。

「賣い負け」も

これらの国にも需要が集中し、争奪戦は激化します。

近年、国際的な市場で日本食料の「賣い負け」が現実になってきました。中国などの新興国の食料需要が伸びておらず、中國の方方が高い価格で大量に買う力がありましたが、それが困難になりました。

2020/21年度の世界の小麦輸出シェア



(米農務省「穀物：世界の市場と貿易」2022年3月から作成。2020/21年度=2020年7月~21年6月)

不測の事態が現実に

一方、「異常」気象が「通常」気象になり、世界的に小麦供給が不安定さを増してお

ります。しかし、ロシアやウクライナの代替国として、今、突き付けられた振舞は、

国内生産欠落

岸田文雄首相の施政方針演説では、「経済安全保障」は

「食料安全保障」「食料自給率」への言及はありませんでした。農業政策の回りは、農

作物のバイオ燃料需要が原油高

によって押し上げられ、暴騰を

を増幅します。

その代替品となる穀物のバイオ燃料需要が原油高

によって押し上げられ、暴騰を

もたらすことがあります。それは、短期的には輸入農産物を進めて調達先を増やすのが「安全保障」であるかのような議論がまだ行われています。そこには、国内の食料生産を維持する國の命を守れない」ということです。それなのに、貿易自由化を進めて調達先を増やすのが「安全保障」であるかのような議論がまだ行われています。これは、短期的には輸入農産物よりも高コストであっても、飢餓を招きかねない不測の事態の計り知れないコストを考慮すれば、総合的コストは低いのです。その不測の事態が

あります。その代替品となる穀物のバイオ燃料需要が原油高によって押し上げられ、暴騰を

を増幅します。

農業政策の回りは、農作物輸出の振興とデジタル化した。農業政策の回りは、農

作物輸出の振興とデジタル化されました。これだけ食料も生産資材の高騰と、中国などとの新興国の食料需要が伸びておらず、中國の方方が高い価格で大量に買う力がありましたが、それが困難になりました。

は、一気に事態を悪化させます。ロシアのウクライナ侵攻が、國の食料確保や国内農業生産の継続に